

生活困窮者自立支援制度就労準備支援事業

—はたらっく・ひらつかの実践から学ぶ—



4月10日、神奈川ネットワーク運動・平塚第35回総会2部学習会で「はたらっく・ひらつか」の一年間の活動について学びました。

「はたらっく」は平塚市から委託を受けて生活困窮者自立支援法に基づく就労準備支援事業を行っている施設で座間市、湯河原町について平塚市は3番目の取組になります。

平塚市では昨年3月から事業がスタートしていますが、一年間の活動から見えてきた平塚市の課題等について、当初から活動に関わってきた岡田百合子さん（神奈川ワーカーズ・コレクティブ協会副理事長）から話を伺いました。

地域で違うニーズ

就労準備支援事業は、ハローワークを中心とする既存の雇用施策の枠組みでの支援にはなじまない、様々な課題を抱えた方に対して、イベントや地域活動等への参加、生活リズムの改善や体力づくり、職場体験の機会の提供等を行うことで就労に必要な力を高める事業です。事業スタートから5年目の座間、3年目の湯河原、今年3月から2年

目となる平塚では、まちの規模も地域性も違い、はたらっくを利用する市民の年代やその生活環境も大きく違うとのことです。それぞれのニーズを発見し、そのまちならではの支援プログラム作りが重要です。座間市では、社会参加のステップにつながる自宅以外の居場所として「みんなの居場所ここから」が昨年開設されています。

市民参加で

たすけあいの社会づくりを！

今年3月開催された国の検討会では、問題が顕在化する前の、地域で互いに「気をかけあう」関係の重要性や、SOSへの対応方法を学習することで支援につなげることの必要性がやっと論点になってきたとのこと。

岡田さんからは「困りごとを抱えている市民を顕在化し、市民ができる支援を見出しつなげること、その積み重ねによってたすけあいの社会は創られていく」とのメッセージが最後にありました。

平塚ではまだ緒にいたばかりの就労準備支援事業ですが、はたらっく・ひらつかを中心に、行政、社協、地域で活動するNPOや生協、そして多くの市民が連携してたすけあいの社会づくりが進むよう、神奈川ネットワーク運動・平塚も活動に取り組んでいきます。

「ヤングケアラー」

市は、無料の宅配弁当を予算化

実態調査を！

ヤングケアラーと呼ばれる若者・子どもたちの存在がクローズアップされる中、平塚市ではこの4月から、現在市が把握している対象世帯に月1回無料のお弁当を宅配する事業を始めました。社会福祉士がいる民間団体に委託し、宅配事業を通じ家庭状況を把握し相談等適切な支援につなげるということです。

ネット平塚が昨年提出した予算要望に対しても「関係課や学校が連携して定期的に訪問するなど、個々に相談対応する中で一人ひとりの課題を確認し、支援を進めていく」と回答がありました。寄り添った支援につながるよう注視していきます。

またヤングケアラーの課題の一つとして、子どもたちのほとんどが、自分がヤングケアラーであるとの認識はなく、その問題が見過ごされがちであることがあります。市として実態把握のための調査に取り組むよう、引き続き要望してまいります。

神奈川ネットワーク運動とは

1. 議員は2期8年で交代します。
2. 議員報酬は市民の活動資金として活用します。
3. 選挙はすべて市民のカンパとボランティアで。

